

## 2 研究の実際

### (1) 文献による理論研究

#### ア 新学習指導要領における小学校音楽科の目標

育成を目指す資質・能力は以下のように三つの柱で整理されています<sup>(1)</sup>。

(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。(学びに向かう力、人間性等)

この三つの柱は、目標の柱書きに示されている「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」<sup>(2)</sup>に当たり、育成することが目指されています。音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などに関連付けること」<sup>(3)</sup>です。三つの資質・能力を育成するためには、「音楽的な見方・考え方を働かせることが必要である」<sup>(4)</sup>と示されています。

#### イ 鑑賞の指導事項

新学習指導要領の第5学年及び第6学年の鑑賞領域の指導事項は、次のとおりです。

ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。	思考力、 判断力、 表現力等
イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。	知識

ア及びイの各事項の内容は、相互に関わらせながら、一体的に育んでいくものであるとされています。

#### ウ 楽譜の取り入れ方について

楽譜について、畑中浩美は「目に見えない音楽を見えるように表す」<sup>(5)</sup>、「楽曲の全体像を眺めたり、特徴を分析したりすることができる」<sup>(6)</sup>のものであると述べています。また、山崎正は「音の高さや強さ、長さ等を図形譜の延長線上の意味合いで使われはじめたと言える。……平面図形の中に密度や縦横の広がり表現しているというような絵画的な見方をすれば、イメージ譜となんら変わらないのではないだろうか」<sup>(7)</sup>と述べています。さらに、鑑賞に楽譜を取り入れることについては、和音が載っている楽譜を基に、「縦の幅は力強く、横への動きは時折停止するように見えることからイメージ譜と同じ効果を得ることができるだけでなく、より立体的な造形として捉えることができる……単なる音のイメージとして捉え、音の変化を上下の高さとしてみたり、横の方向には時間の中に含まれる音の数による密度として捉えることによって、同じイメージを展開できる」<sup>(8)</sup>と述べています。

## エ 理論研究のまとめ

これらのことから、これからの小学校音楽科では、「音楽を形づくっている要素（旋律、リズム、強弱、音の重なりなど）の働き」を大切にした授業づくりが求められていると考えます。

鑑賞領域では、鑑賞の指導事項のア及びイの各事項の内容を関連させることにより、「曲のよさについて考えをもつこと」と「曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること」ができると考えます。曲のよさについて考えをもつには、曲のよさを見いだす過程で知識を得たり生かしたりすることが必要となります。曲のよさについて考えをもつことで、知識が更新されていきます。このように、「曲のよさについて考えをもつこと」と「曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること」は関連したもので、ア及びイの内容を繰り返すことで、どちらも習得できると考えます。

そして、楽譜は音楽の構造を可視化したものであり、楽譜を取り入れることで、曲の特徴（聴き取ったことや感じ取ったこと、その関わり）の根拠を見付けたり、新たな根拠に気付いたりすることができると考えます。音符をつないで上下の高さを旋律の変化として見たり、小節の中の音符の数による密度をリズムの特徴として見たり、記号を強弱や曲想につながるものとして見たり、縦の広がりや音を重なりとして見たりするなど、特徴の根拠に着目させることができると考えます。

このように、楽譜を取り入れることで、曲想と音楽の構造との関わりについて理解を促し、曲のよさについて考えをもつことにつながれると考えます。

## (2) 実態調査

検証授業の対象となる第5学年の児童 36 人に調査を実施しました (H30.9)。

### ①国立教育政策研究所の「特定の課題に関する調査（音楽）」の調査問題

#### 【問題】

イベール作曲の『パレード』をききます。この曲はA, B, C, Dの四つの部分からできています。

みゆきさんは『パレード』の音楽のBの部分とCの部分をきいて、「広場に行列が入ってきたと思ったら、目の前ではなやかな演技が始まったみたいだ」と感じました。

下のイからハについて、みゆきさんがこのように感じた理由としてふさわしいものには○を、そうでないものには×を書きましょう。

- イ Cから金管楽器と打楽器が加わるから。
- ロ CはBに比べて、強くなるから。
- ハ CはBに比べて、速くなるから。

結果は図1のとおりでした。

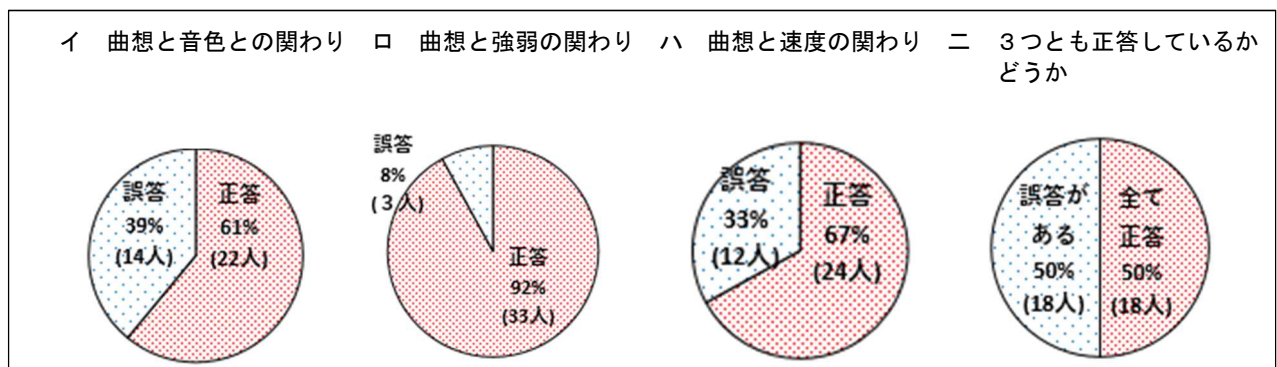


図1 曲想と音楽の構造との関わりについての理解 (n=36人)

曲想と音楽の構造との関わりについて理解している児童は半数でした（前頁図 1 二）。曲想と強弱の働きについて、92%（33 人）の児童が理解していますが（前頁図 1 口），曲想と音色及び速度の働きについては、理解している児童は 61%（22 人）にとどまっています（前頁図 1 イハ）。

②ハチャトゥリヤン作曲の『剣の舞』を 1 回聴き、曲想と音楽の構造との関わりを記述する調査問題

結果は図 2 のとおりでした。64%（23 人）の児童が曲想と音楽の構造との関わりについて記述することができていました。曲想のみ記述していた児童は 19%（7 人），記述はしているが、音楽を形づくっている要素と関連していなかったり、内容が伝わりにくかったりする記述をしていた児童は 11%（4 人）でした。「どんな感じがしたか」「それはどうしてか」という問いに対し、問われている意味が分からなかった児童が 6%（2 人）いました。

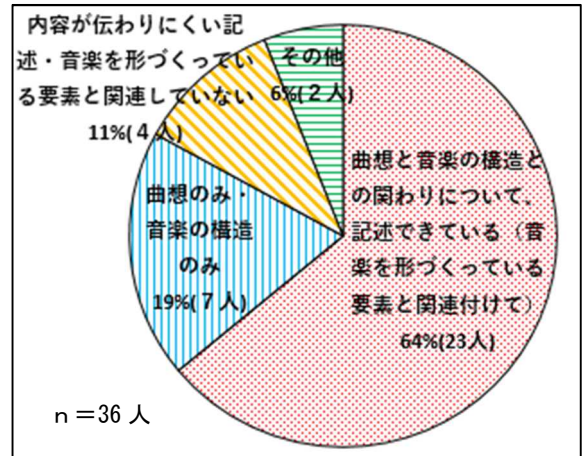


図 2 曲想と音楽の構造との関わりについての記述

①②の結果から、音楽を形づくっている要素を聴き取ること及び曲想と音楽の構造との関わりに気を付けて聴くことができていない児童がいる傾向が見られました。曲想及び音楽を形づくっている要素の意味を理解させ、それぞれの特徴や 2 つの関わりに気付かせる手立てが必要であると考えます。

(3) 具体的な手立て

本研究では、曲想と音楽の構造との関わりについて理解を促すことができるように、楽譜を取り入れます。楽譜で曲の特徴（聴き取ったことや感じ取ったこと、その関わり）の根拠を見付けたり、新たな根拠に気付いたりさせます。そのために、楽譜の特徴に気付くことを促す活動をさせたり、楽譜を取り入れたワークシートを工夫したり、ワークシートの使い方を事前に確認したり、楽譜で見付けたことや気付いたことを確かめさせたりします。そうすることで、曲想と、音符や休符を組み合わせたリズムの働き、音の高低の変化を表す旋律の働き、複数の旋律による音の重なりなどの関わりを捉えやすくなると考えます。楽譜を取り入れるに当たって、次のような手立てや工夫を取りま

楽譜の特徴に気付くことを促す手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主旋律を歌わせることで、オーケストラによる演奏を聴くとき、主旋律の特徴を聴き取れるようにする。</li> <li>・主旋律をゆっくり歌わせることで、オーケストラによる演奏を聴くとき、曲の特徴に気付けるようにする。</li> <li>・主旋律を繰り返し歌わせることで、主旋律を覚え、特徴に気付けるようにする。</li> <li>・音の高さに合わせて手を上下に動かさせることで、旋律の特徴に気付けるようにする。</li> <li>・リズム打ちをさせることで、リズムの特徴に気付けるようにする。</li> <li>・指揮をさせることで、強弱の特徴に気付けるようにする。</li> </ul>
楽譜を取り入れた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較する旋律を並べることで、比較によって特徴の違いに気付けるようにする。</li> <li>・言葉のリストを載せることで、曲想が書けるようにする。</li> </ul>

ワークシート作成上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素の具体を載せることで、感じた曲想の根拠を書くヒントにできるようにする。</li> <li>・楽譜の隣に、特徴をまとめた表を載せることで、曲を聴いた特徴と楽譜を照応できるようにする。</li> <li>・楽器のイラストを入れたり、楽器の種類ごとに楽譜の色を分けたりすることで、演奏と楽譜を照応できるようにする。</li> </ul>
楽譜で曲の特徴の根拠を見付ける前の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素を絞ることで、見付ける視点をもてるようにする。</li> <li>・拡大楽譜から気付いたことを全体で出し合わせることで、1人で楽譜から曲の特徴を見付けるヒントにできるようにする。</li> <li>・既習曲の楽譜を使って曲の特徴の根拠を見付けさせることで、知識を生かして楽譜から曲の特徴を見付けるヒントにできるようにする。</li> <li>・楽譜の記号の説明をすることで、曲の特徴を見付ける手掛かりにできるようにする。</li> <li>・特徴の記述の仕方を伝えることで、考え方のヒントにできるようにする。</li> </ul>
曲の特徴を確かめる手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の特徴を強調して歌わせることで、音楽を形づくっている要素の働きが分かるようにする。</li> <li>・音の高さに合わせて手を上下に動かさせることで、旋律の働きに気付けるようにする。</li> <li>・リズム打ちをさせることで、リズムの働きに気付けるようにする。</li> <li>・指揮をさせることで、強弱の働きに気付けるようにする。</li> <li>・部分的または全体的に聴かせることで、曲の特徴を確認できるようにする。</li> <li>・キーボード演奏をすることで、曲の特徴を確認できるようにする。</li> <li>・オーケストラによる演奏の映像を鑑賞させることで、音楽を形づくっている要素の働きを味わえるようにする。</li> <li>・グループ交流や全体交流を行うことで、多様な考えを知ることができるようにする。</li> </ul>

(4) 授業実践

題材 「曲のよさを考えよう」

教材 「威風堂々 第1番」(エルガー 作曲) (鑑賞)

題材の目標

楽譜で曲の特徴の根拠を見付けたり気付いたりする活動を通して、聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けながら曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、曲のよさについて考えをもつ。

本題材で位置付ける〔共通事項〕

(ア) 音楽を特徴付けている要素…リズム, 旋律, 強弱, 音の重なり

ア 1時目

○目標

曲想と音楽の構造との関わりを考えながら聴く。

○授業の展開 ※ [ ] は、教師 (T)、児童 (C) のやり取りを示す。ゴシック体は、本研究で取り入れる手立てを示す。

過程	学習活動	教師の働き掛け
導入	1 旋律A, 旋律B, それぞれ一部のキーボード演奏を聴く。 T: どちらも同じ曲です。 C: Bは聴いたことがあるな。	・旋律Aは激しい動きの部分, 旋律Bはゆったりした部分とし, どちらも同じ曲であることを知らせることで, 特徴を比較する学習につなぐようにした。

	<p>2 主旋律を歌って、主旋律の特徴をおさえる。</p> <p>C : Aは難しい。          T : どうして難しかった？          C : リズムが取りづらいです。          T : タッタッタララララララ♪ (手拍子でリズム打ちしながら) ちょっと音の長さが短い感じがするね。他には？          C : 音を取りづらいです。          T : タラララララララ♪ (手を上下しながら) 音の高さがジグザグしていて難しいね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌ったり体を動かしたりすることで、旋律やリズムの特徴に気付くことを促した。</li> <li>歌うことに苦手意識をもたないように、旋律B、旋律Aという順序で歌うようにした。</li> <li>歌いやすいように、旋律Bは「ラララ」、旋律Aは「タッタッタララララララ」と、ゆっくりしたテンポで歌うようにした。</li> <li>歌うときは、音の高さに合わせて手を上下に動かさせたり、リズム打ちをさせたり、歌う人を変えたりして、遊び感覚で繰り返し歌うようにした。</li> </ul>																																																										
<p>展開</p>	<p>3 オーケストラによる演奏を聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような感じがするか考えながら聴くように声を掛けた。</li> <li>ワークシートには、曲想を書くことができるように、手掛かりになる言葉のリストを載せた。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>※ 次のことは参考にしてもいいです。</p> <table border="1" data-bbox="325 1032 1315 1402"> <thead> <tr> <th>例</th> <th>分類</th> <th>感じ</th> <th>分類</th> <th>感じ</th> <th>分類</th> <th>感じ</th> <th>分類</th> <th>感じ</th> <th>分類</th> <th>感じ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">楽しい</td> <td></td> <td>楽しい</td> <td rowspan="7">はげしい</td> <td>はげしい</td> <td rowspan="7">力強い</td> <td>力強い</td> <td rowspan="7">落ち着いた</td> <td>落ち着いた</td> <td rowspan="7">その他</td> <td>美しい</td> </tr> <tr> <td></td> <td>うれしい</td> <td>はく力がある</td> <td>どどうとした</td> <td>なごむ</td> <td>おどりたくなる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>うきうきした</td> <td>もり上がる</td> <td>勇ましい</td> <td>おだやかな</td> <td>軽やかな</td> </tr> <tr> <td></td> <td>明るい</td> <td>はなやかな</td> <td>そう大な</td> <td>のんびりした</td> <td>なめらかな</td> </tr> <tr> <td></td> <td>元気な</td> <td>パワフルな</td> <td>重々しい</td> <td>あたたかい</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>スカッとする</td> <td>情熱的な</td> <td>はずむような</td> <td>のどかな</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>生き生きとした</td> <td>にぎやかな</td> <td>はつらつとした</td> <td>どっしりした</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	例	分類	感じ	分類	感じ	分類	感じ	分類	感じ	分類	感じ	楽しい		楽しい	はげしい	はげしい	力強い	力強い	落ち着いた	落ち着いた	その他	美しい		うれしい	はく力がある	どどうとした	なごむ	おどりたくなる		うきうきした	もり上がる	勇ましい	おだやかな	軽やかな		明るい	はなやかな	そう大な	のんびりした	なめらかな		元気な	パワフルな	重々しい	あたたかい			スカッとする	情熱的な	はずむような	のどかな			生き生きとした	にぎやかな	はつらつとした	どっしりした	
例	分類	感じ	分類	感じ	分類	感じ	分類	感じ	分類	感じ																																																		
楽しい		楽しい	はげしい	はげしい	力強い	力強い	落ち着いた	落ち着いた	その他	美しい																																																		
		うれしい		はく力がある		どどうとした		なごむ		おどりたくなる																																																		
		うきうきした		もり上がる		勇ましい		おだやかな		軽やかな																																																		
		明るい		はなやかな		そう大な		のんびりした		なめらかな																																																		
		元気な		パワフルな		重々しい		あたたかい																																																				
		スカッとする		情熱的な		はずむような		のどかな																																																				
		生き生きとした		にぎやかな		はつらつとした		どっしりした																																																				
	<p>4 感じたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに書いたことを4人組で交流させ、友達の考えを共有したり、共感したりできるようにした。</li> <li>納得した友達の考えは、ワークシートに付け加えてよいことを伝えた。</li> <li>感じたことの共通点を考えさせた後、3つ(旋律A、旋律B、全体)のどれに当たるか尋ねることで、曲のどの部分から感じたことか確かめられるようにした。</li> <li>題名を伝えることで、感じ取ったことと題名のイメージにつながりがあることを確認できるようにした。</li> </ul>																																																										



	<p>5 なぜそのように感じたのか理由を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どんな感じがしますか？</p> <p>自分 サークスでなかれるのが、はくわかいあて、もりよる感じと中からたさしくな、てその後みうし、しもみたいな感じ</p> <p>友達 かんかしているような感じ 像があるいているような感じ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>なぜ、そう感じたのか、わけを書きましょう。</p> <p>自分 リズムかほげしかたさ。</p> <p>友達</p> <p>※ わけを書くときに次のことばを使ってみましょう。 音の動き、リズム、強弱、音色</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートには、音楽を形づくっている要素に着目できるように、<b>音楽を形づくっている要素の具体</b>を載せた。</li> </ul>
まとめ	<p>T：どこの部分について書きましたか？</p> <p>C：Aの部分で、「迫力がある」についてです。</p> <p>T：「迫力がある」と感じた理由を教えてください。</p> <p>C：リズムが激しいからです。</p> <p>T：もう少し詳しく教えてください。</p> <p>C：リズムが強く、強弱が強いからです。</p> <p>T：Aの部分を書いて確かめてみましょう。</p> <p>C：♪（Aを歌う）</p> <p>T：短い音がたくさん続くリズムだから、激しいリズムと書いたのかな。（線をつなぎながら）迫力がある感じにもつながるね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲のどの部分について説明しているのかが分かるように、3つ（旋律A、旋律B、全体）のどれについての理由かを尋ねた。</li> <li>児童による理由の説明が伝わりにくいときは、詳しく尋ねた。</li> <li>旋律を歌わせることで、曲の特徴を確かめられるようにした。</li> <li>視覚的につながりが分かるように、板書した感じたこととその理由を線でつないだ。</li> <li>音楽を形づくっている要素の着目につながるように、<b>音楽を形づくっている要素ごとに理由を整理して板書した。</b></li> </ul>
	<p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲から感じたことには、リズムや強弱などが関係していることを確認する。</li> </ul>

イ 2時目


○目標

旋律A、旋律B、それぞれの曲想と音楽の構造との関わりについて考え、理解する。

○授業の展開

※ [ ] は、教師 (T)、児童 (C) のやり取りを示す。ゴシック体は、本研究で取り入れる手立てを示す。

過程	学習活動	教師の働き掛け
導入	<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どんな感じがしますか？</p> <p>なぜ、そう感じたのか、わけを書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はく力</li> <li>はげしい</li> <li>元気</li> <li>もり上がる</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・1つ1つの音が短く切れているリズム</p> <p>・強い <b>強弱</b></p> <p>・力強い音色 <b>音色</b></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>力強い</li> <li>ゆったり</li> <li>なめらか</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・音の動きがなめらか <b>旋律</b></p> <p>・1つ1つの音が長いリズム <b>リズム</b></p> <p>・弱い <b>強弱</b></p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体の動きを入れて曲を聴き、1時目の学習を振り返った。</li> <li>1時目の学習について、A、Bごとに<b>まとめた掲示物</b>を見せ、音楽を形づくっている要素のどれに当たるかを確認させることで、楽譜で確かめる音楽を形づくっている要素に気付くようにした。</li> <li>楽譜で確かめる音楽を形づくっている要素が視覚的に分かるように、掲示物に音楽を</li> </ul>

	<p>めあて：AとBの特ちょうを確かめよう。</p> <p>2 確かめる方法を考える。</p> <p>T：本当にそうなのかな。確かめられる方法はない？</p> <p>C：音符。シャープ。速度記号。</p> <p>T：そういうのが全部分かればいいね。音符とか記号がいっぱいあるものは、ないかな。</p> <p>C：楽譜。</p> <p>T：楽譜があれば確かめられそうですね。</p>	<p>形づくっている要素を書き込んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1時目に聴き取ったことや感じ取ったこと、その関わりについて確かめる方法として、楽譜を見ることに気付かせるようにした。</li> </ul>
<p>展開</p>	<p>3 曲想と音楽の構造との関わりを楽譜で確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜の見方を知る。</li> </ul> <p>T：(拡大楽譜を見せて) どんな楽譜だろうね。</p> <p>C：上がAで、下がBです。</p> <p>C：全然違う。音符が多い。音符が全然違う。音符の数が違う。</p> <p>T：音符の数を見たらいいね。他に何か分かるかな。</p> <p>C：スラー。</p> <p>T：記号も手掛かりになりそうだね。</p> <p>C：伸ばす記号もある。</p> <p>T：音符の数や記号から、楽譜で感じた理由を確かめられそうですね。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜で確かめる。</li> </ul> <p>1人で</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大楽譜をみんなで見て気付きを出し合わせることで、記号や音符の密度が手掛かりになることに気付くようにした。</li> <li>・楽譜の旋律を指しながら歌わせることで、リズムや旋律を確かめられるようにした。</li> <li>・フォルテッシモなどの記号の意味を確認することで、曲の特徴を見付ける手掛かりにできるようにした。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「楽譜がこうなっているからこんな感じがする」という記述の仕方を伝えることで、考え方のヒントにできるようにした。</li> <li>・ワークシートの楽譜の中から、曲の特徴が分かるところを囲んだり線を引いたりするように伝えることで、視覚的に特徴が分かるようにした。</li> </ul>

感じ	わけ
・はき力 ・はげしい ・元気 ・もり上がる	・1つ1つの音が短く切れているリズム ・強い ・力強い音色

感じ	わけ
・力強い ・ゆったり ・なめらか	・音の動きがゆるやか ・1つ1つの音が長い ・リズム ・弱い

**1時目の学習で出た考えについて、旋律A、旋律Bごとにまとめた表**

自分Aは音をつなげる時たくさん凸凹があって重さがはげしくなる。  
 Bは音をつなげると凸凹が少なくて滑らかな感じ。  
 友達と交流してAはフォルテッシモスタッカート  
 Bはスラーやタイがあるから  
 映像を見てしるの人がAパートの時よりもBパートの時よりも落ちついていて、  
 差がとれてはけしやすかった。

グループ交流で

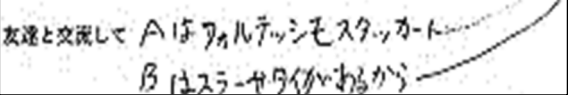


・グループ交流で、納得した友達の考えは、ワークシートに付け加えてよいことを伝えた。

全体交流で



Aは、スタッカートがあるから、迫力や激しい感じがすると思います。  
 Bは、タイやスラーがあるから、滑らかな感じがすると思います。



・全体交流で、児童の説明が伝わらないときは、児童に詳しい説明を求めたり、他の児童に尋ねたりした。また、歌ったり体を動かしたりして特徴を確かめさせるようにした。

まとめ 5 本時の学習を振り返り、次時の学習を知る。

・次時は、曲全体に広げて、曲が愛されている理由を考えていくことを伝えた。

ウ 3時目

○目標



曲全体の曲想と音楽の構造との関わりから、曲のよさを考える。

○授業の展開

※ [ ] は、教師 (T)、児童 (C) のやり取りを示す。ゴシック体は、本研究で取り入れる手立てを示す。

過程	学習活動	教師の働き掛け
導入	1 「威風堂々 第1番」が愛されていることについて知る。	・イギリスでは第2の国歌として愛されていることを伝え、曲のよさを考えるということにつなげた。



	<p>めあて：曲のよさを考えよう。</p>	
<p>展開</p>	<p>2 指揮をしながら曲全体を聴く。</p> <p>3 曲全体がどのように変化したかについて考える。</p> <p>T：指揮の振り方がだんだん大きくなっていましたね。全体的に何が変化していますか？</p> <p>C：強さ</p> <p>T：強さがどのように変化していますか？</p> <p>C：最初は優しい感じの強さだったけど、だんだん強くなった。</p> <p>T：そうですね。Bを例に考えると、Bは繰り返されていたけど、初めのBと後のBでは、強さが違ってましたね。では、どうして、強さが違うように感じたのでしょうか？楽譜で確かめてみようか。</p> <p>4 楽譜で確かめる。</p>  <p>1人で</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強弱の特徴に気付くことができるように、指揮をさせた。</li> <li>・音楽を形づくっている要素に気付くことができるように、<b>強弱に着目する発問</b>をした。</li> <li>・Bは同じ旋律を繰り返しているが、だんだん強くなっていることを確認した。</li> <li>・1回目と2回目のBを並べた総譜（フルスコア）を提示し、配付した。</li> <li>・楽器の分類、名前について<b>楽器のイラスト</b>を示しながら伝え、縦に音の重なり、横に音の流れが表されていることが分かるようにした。</li> <li>・演奏と楽譜を照応できるように、<b>楽譜の部分</b>を聴かせた。</li> <li>・2時目の学習を振り返り、本時でも楽譜を見るときに、記号や音の密度が手掛かりになるかもしれないことに気付かせるようにした。</li> <li>・楽譜で1回目と2回目を比較して、強弱の違いが分かるところに<b>印を付ける</b>ように伝えることで、視覚的に特徴が分かるようにした。</li> </ul>

いっしょどうぞ 『威風堂々』 名前( ) <sup>2回目</sup>

せんりつB (1回目) せんりつB (2回目)

【めあて】曲のよさを考えよう

全体交流で

T : 2回目が強く聴こえた理由は楽譜から分かりましたか？

C : 1回目は休みが多いです。2回目はオルガンが増えています。

T : 記号はどうですか？

C : 2回目はフォルテッシモやアクセントなどの記号があります。

C : 2回目は3つ同時に演奏する和音があります。

5 作曲者の意図を考える。

T : エルガーは、どうして同じ旋律なのに音の重なりや強弱を変えたのでしょうか？

C : なぜかなあ。

T : 指揮の振り方もだんだん大きくなっていましたね。振ってみてどうでしたか？

C : だんだん気持ちが盛り上がりました。

T : 指揮者や演奏者も盛り上がりますが、聴いている人はどうですか？（歌いながら指揮をする）

C : 聴いている人を元気にしていると思います。

6 オーケストラの演奏を鑑賞する。

- ・全体交流で、だんだん強くなったように感じたのは、音を強く出していることや、演奏する楽器の数が増えていることによることを確認した。
- ・和音の部分をキーボードで演奏することで、和音は音楽に厚みをもたせる働きがあることを確認した。
- ・だんだん強くした理由を考えさせることで、強弱や音の重なりによって、聴き手の感情が盛り上がることに気付くようにした。
- ・オーケストラの演奏の動画から、音楽を形づくっている要素によって、たくさんの人の感情を動かすことを伝えた。

	<p>7 曲のよさについて書く。</p> <p>(児童のワークシートの記述より)</p> <p>みんなを楽しませるよさがあります。初めは、リズムが激しい感じがして、後で、おだやかなリズムになります。リズムの変化が楽しいです。</p>	
<p>ま と め</p>	<p>8 題材のまとめをし、学習の振り返りをする。</p>	<p>・ 1 時目のワークシートや、題材全体の学習を振り返ることを通して、曲想と音楽の構造との関わりについて、根拠をもって理解できたことを自覚できるようにした。</p>

(5) 2 時目の児童のワークシートによる考察

曲想と音楽の構造との関わりについて考察しました。L 児は、音楽の授業に関心・意欲があり、検証授業前の鑑賞では、音楽を形づくっている要素の特徴に気付いていたものの、曲想と関連させた記述は見られなかった児童です。L 児は、曲を聴いて、1 時目では、A の旋律から「迫力がある感じ」、B の旋律から「おだやかな感じ」と感じ取った曲想を記述していました。また、「迫力がある感じ」がした理由を「音が強かったから」と記述していました。

資料 1 は、本題材の 2 時目における L 児のワークシートです。資料 1 を見ると、楽譜の音符をつなぎ、実線部 (→) のような文章に表しています。これは、主旋律を歌ったり手を主旋律に合わせて上下に動かしたりしたことが、音符をつなぐというヒントに結び付き、「激しい」「滑らか」という曲想と旋律の関わりに気付くことを促せたと考えます。また、L 児は、表の言葉と楽譜を線でつないでいます。これは、曲を聴いて考えた特徴と楽譜を照応することができ、曲想と音楽の構造との関わりを楽譜で確かめられたと考えます。さらに、グループ交流を通して、枠囲み部 (□) の記述をしています。これは、記号の意味をみんなで確認したことやグループ交流が、記号も曲想の根拠になると気付くことにつながったと考えます。以上のことから、L 児は、1 時目で考えた曲想と音楽の構造との関わりを、楽譜と結び付けて理解していると考えます。

The image shows a student's worksheet with musical notation and handwritten notes. At the top, there are two musical staves labeled A and B. Staff A has a red line drawn through it, and a table below it lists feelings and reasons. Staff B also has a red line, with another table below it. At the bottom, there are several text boxes with handwritten Japanese text, some enclosed in red and yellow boxes. A small portrait of a man is visible in the bottom right corner of the worksheet area.

感じ	わけ
・はく力	・1つ1つの音が短く
・はげしい	・切れているリズム
・元気	・強い
・もり上がる	・力強い音色

感じ	わけ
・力強い	・音の動きがなめらか
・ゆったり	・1つ1つの音が長い
・なめらか	・リズム
	・穏い

楽心から分かって持ちよつを 書きましょう。

自分 A は 響きをつなげるとたくさん凸凹がある、動きがはげしい

B は 響きをつなげると凸凹が少なく滑らかな感じ

友達と交流して A は アルティモスクォート

B は スラバクイ があるから

映像を見て 先生の人が A パートの時よりも B パートになると強くなって B パートになると弱くなっていった。差かとしてはいけなかった。

資料 1 2 時目のワークシートへの記入 (L 児)

2時目で使用したワークシートを、学級全体について分析すると、図3のような結果が得られました。ワークシートを回収した34人の内、約97%（33人）の児童が曲想と音楽の構造との関わりについて1つ以上記述していました。しかし、楽譜の部分に書き込みをしていた児童は全体の31%（11人）でした。このことから、着目したところが視覚的に分かるように、楽譜の部分への書き込み方について指導を工夫する必要があると考えます。

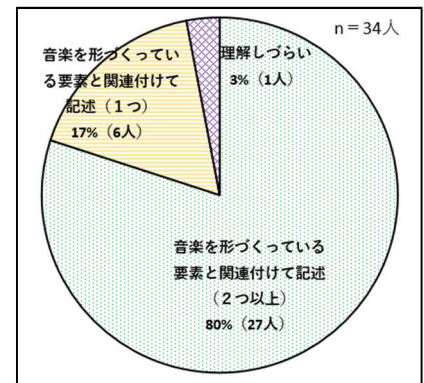


図3 曲想と音楽の構造との関わりについての記述（2時目）

#### (6) 3時目の児童のワークシートによる考察

検証授業（3時目）では、初めに、「威風堂々 第1番」が、CMやテレビ番組、スポーツの応援に広く用いられていることなど、たくさんの人に聴かれ愛されていることを伝えました。そして、音楽を形づくっている要素の働きに気付き考える活動を行わせた後、曲のよさを記述させました。L児は、曲のよさについて、「旋律Aはノリがあるリズムで、旋律Bはおだやかな感じがした。強弱やリズムの変わり方が激しいところが面白い」と記述していました。児童が歌ったり体を動かしたり、楽譜を使ったりして、曲の特徴を確かめたことが、曲想と音楽の構造との関わりについての理解を促し、さらに、音楽を形づくっている要素の働きを曲のよさとみなすことにつながったと考えます。

また、学級全体について分析すると、図4のような結果が得られました。34人の内、77%（26人）の児童が、L児のように、音楽を形づくっている要素の働きを踏まえて、曲のよさを記述していました。強弱に合わせて指揮をすることで強さから迫力を感じたり、旋律Aと旋律Bの特徴の違いに気付くことで変化することの面白さを感じたりしたことが、曲のよさを記述するヒントにつながったと考えます。

しかし、23%（8人）の児童が、「強弱がすごい」「体にひびく」など、曲のよさの説明が不十分な記述をしていました。音楽を形づくっている要素についての表現例を紹介するなど、表現の語彙を増やす手立てが必要でした。今後、音楽を形づくっている要素を表す語彙を増やす手立てを探り、音楽を形づくっている要素の働きを考える授業を系統立てて継続していくことが大事であると考えます。

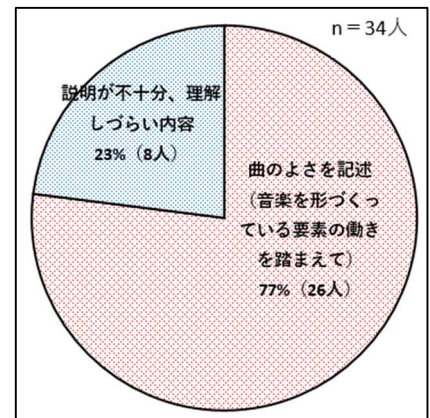


図4 曲のよさについての記述（3時目）

#### 《引用文献》

- (1)(2) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説音楽編』 平成29年7月 p.9
- (3)(4) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説音楽編』 平成29年7月 p.10
- (5)(6) 畑中 浩美 「読譜指導は必要かー楽譜のよさに気づかせて学ぶ意欲につなげるために」『音楽教育実践ジャーナル vol.7 no.1』 2009年8月 p.36
- (7)(8) 山崎 正 「鑑賞授業における音楽理解を導く読譜の役割とその効果～主体的音楽活動に向けての読譜の効用とは～」『教育研究実践報告誌 第1巻第2号』 2017年12月号 p.34